

2024年(令和6年)6月14日(金曜日)



左から鶴巻常務執行役員と後藤執行役員



ハンディー型ガス漏えい検査システム



投入を検討している四足歩行ロボット「Spot」

スマート保安向けにDX（デジタルトランスフォーメーション）商材のレンタルサービスを展開する横河レンタ・リース。商材では2020年6月にゴーグル型端末の取り扱いを開始。今年5月にはハンディー型ガス漏えい検査システムを投入した。今後は四足歩行型ロボットの取り扱いも視野に入れ、取り組みを加速させる構えだ。

スマート保安とは先進的な技術を活用して効率的で安全な保安体制を築く取り組み。労働者の減少や高齢化、技術の伝承が難しい中で、危険を伴うプラント系の点検・保守作業はまだ属性が高い。

鶴巻常務執行役員事業統括本部副統括

本部長は「製品価格は

高額であり購入を間違えれば、お客さまは投

資損失になる。定期点

検をはじめ、使いたいときだけ機器があれば

機器の調達手法

ハンディー型ガス漏えい検査システムの導入を間違えれば、点検作業などの効率性を高めるもの。新型コロナウイルス流行により人の移動が制限される中、遠隔指示などのニーズに合致し

マート保安向けDX商材の狙いを説明する。商材では2020年6月にマイクロソフトのMR（複合現実）ゴーグル型端末「HoloLens（ホロレンズ）」を投入した。レン

トアントDX実現へ

同社は23年9月に横

河ソリューションサー

ビス、パナソニック

コネクトと協業し、プ

ラントのDX実現に向

けた取り組みとして地

域限定の高速通信規格

「ローカル5G」導入

検討用レンタルパッケ

ージをリリースした。

これは先端技術活用の

通信インフラ構築促進

を狙ったもの。後藤和

宏執行役員同本部MP

事業本部長は「エリア

設計や設置作業など商

にレンタルというメニューを加えることで各メーカーも取り組みやすくなるのでは」とスマート保安向けDX商材の狙いを説明する。商材では2020年6月にマイクロソフトのMR（複合現実）ゴーグル型端末「HoloLens（ホロレンズ）」を投入した。今も安定した稼働率を維持している。

受注を獲得する見込み。複数の引き合いが

進行しており順調に来

ている」と説明する。

今年5月にはハンデ

ィー型ガス漏えい検査

システム（コニカミノ

ルタ製）のレンタルサ

ービスを開始してい

る。

先端技術の進歩は速

く、陳腐化のリスクも

ニーズに沿った提案

ラインアップの拡充とともにご利用ニーズに沿った提案をしていく方針。大きなプラントやコンビナートでは工場ごとに一斉に点検作業を行うケースが多く、商材を

一連のエリアで巡回させれば顧客のメリットは大きく、

レンタル品の稼働率向上にもつながる。

スマート

横河レンタ・リース

スマート保安向け商材拡充

ハンディー型ガス漏えい検査デバイス投入

ハンディー型ガス漏えい検査デバイス投入

四足歩行ロボットも視野に取り組みを加速させる構えだ。



ある。顧客ニーズとの

両になりになり、商材

の選定は重要だ。今後

の候補には四足歩行型

ロボット「Spot」（米ボストン・ダイナミクス製）は「ホロレンズ2」以後、検討を重ねてきた。スキヤナ

ー

やガス検知カメラなどを複合的に用意する必要はあるが、今後の投入を視野に入れる。

また、防爆ドローン（無人機）は各メーカーの開発が進んでおり、開発後の状況を見て採用を検討していく。

環境はいずれ立ち行か

なくなるのでは」と展望している。

保安向けDX商材について、鶴巻副統括本部長は「お客様からすれば、機材性能の比較、自社の状況に合う機材の選択、費用対効果など検討材料は多くあります。お客様が動くなかが取り入れるかどうかに尽きる。ただ取り入れないと日本の労働環境はいざれ立ち行かなくなります」と展望している。